

(学)長橋学園 杉田幼稚園の「令和7年度 自己評価及び学校関係者評価」結果

令和 8 年 3 月 9 日

(学)長橋学園 杉田幼稚園

1、幼稚園（杉田幼稚園）の教育目標

教育基本法及び学校教育法を基本として、幼稚園教育（幼児教育）を推進し、豊かな心を持てる人を育成することを目的とし、次の教育目標を定める。

教育目標：「明るく 元気に がんばる子」

その目標に～ ・物を大切にする子 ・思いやりのある子 ・お友だちと沢山遊ぶ子 ・お話をよく聞くことができる子・思ったことがはっきり言える子 ・考える力のある子 を目指して指導する。

2、令和7年度の事業計画及び重点目標

事業計画～「緑いっぱい自然の中で、元気な子が育つ学園」として教育活動の推進

- ① 子ども子育て新制度(施設型給付園)への移行(3年目)が円滑に進み、本年度は「県教育大綱・教育振興基本計画」に沿って、園児一人一人の生き生きとした教育活動を実戦すると共に、想定される「南海トラフ地震」や「富士山噴火」及び集中豪雨・雷雨発生、園内事故等にも注意し、安心・安全な環境づくりに努める。
- ② 園児達の発達段階に応じた指導を徹底し、“生きる力”の基礎を培う「モノづくり体験」を実践して行く。
- ③ 思いの伝え合いの場作りに意を用い、規範意識の芽生えを育む活動ができる教育課程を工夫する。
- ④ 「架け橋プログラム」を基に、近隣小学校や幼稚園の連携を充実し、保護者や地域団体との協働も推進する。

以上の事項を重点として、教育内容のさらなる充実に努める。

3、評価項目の達成及び取組状況

A：十分達成されている B：達成されている C：取組まれているが、成果が十分でない

D：取組みが不十分である

評価項目	自己評価		学校関係者評価	
	結果	内容・理由等	結果	内容・理由等
1、保育内容 (1) 保育の計画性	B	園の教育理念や方針を基に、園全体・各学年・クラスの保育計画を(年・月・週案)進め、計画内容の改善には、園児達の様子や成長度合いを見ながら、教員同士で意見交換をして進めている。 また、社会の変化は子どもにも及んでおり、「やってみたい。作りたい。」の意思を尊重し、新たな環境構成や学園行事にも工夫を施し、教育活動を進めることが出来た。	B	新たな社会の変化に合わせた教育活動が実践され、保護者からの信頼のもと、「幼稚園教育要領」を教員同志で確認し合い、環境構成にも工夫(保育の合間に音楽を流す)している。 日・週案を立て、その反省記録を、園長・副園長等に回付し、評価・助言等を受け、指導方法の改善を実行している。 また、複数教員の産休・育休・時短もあり、非常勤教員等が各クラスの指導に携わり、安定した教育が進められた。

<p>(2) 保育のあり方・幼児への対応</p>	<p>A</p>	<p>在園児達の個々の特質などを各教員で共有し、指導方法をフランクに話し合い、自己を高めている。保護者からも随時的に的確な情報を頂き、園児の教育活動や生活に活かし、安心な場づくりを心掛けている。</p> <p>さらに、預かり保育や要配慮児への取組みや目配り等も強化するとともに、ものづくりの体験学習では、年少から年長児の異年齢共同の活動も取り入れられた。</p>	<p>A</p> <p>設置者・園長の評価や教員自身の評価から、保護者の信頼を受けて、子供の目線に立ち、教員相互のコミュニケーションを図りながら、日々の教育活動や生活指導を進められていることが理解できたので、一層の努力を期待する。</p> <p>また、防災や安全対策に取り組み、特に、火山噴火を想定した避難訓練やバス警笛訓練に挑戦するなど、きめ細かな実践もされており、教員各位の更なる努力を願う。</p>
<p>2、保育者としての資質・能力</p>	<p>A</p>	<p>新採教員も加わり、各教員一人一人が、立場・役割を理解し合い、園児最優先の保育に向け、自信を持って取組めるよう、自己の研鑽を積みながら、各方面の情報の取得に努めている。特に、専門性を高めるため、保育の教科書等を読んでいる。</p> <p>教員の年齢層に幅があり、教員同士がその立場、役割を理解し合い、チーム全体のコミュニケーションを図る努力をしている。特に、教育方法について自身の意見を整理の上、全体討論を実践している。</p> <p>また、協会や県・市の幼児教育・福祉部門が行う特別・専門研修に積極的に参加するとともに、園内研修や幼幼交流・共同研究の機会も増やし、先輩は、後輩の意見等にも耳を傾け、相互の成長に努めている。</p>	<p>A</p> <p>自己評価全般を見て、中堅の2人の教員が産休を取っているが、教員それぞれが研鑽を重ね、ベテラン教員は、若手教員へのアドバイスなども適時・適切に行い、相互の疎通を図られている。カリキュラム構成でも、幼児教育の指導書を参考に取り組み、自己の資質向上に努める姿が伺える。</p> <p>今年度を実施した日常生活での事故発生防止や少子化への取り組みに関する園内研修も実施し、教職員の意欲を高く評価したい。</p> <p>子どもは、先生を「心の寄り掛かり」にしており、日々の研鑽、教育課程の充実が、その源となる。</p> <p>市内幼稚園の公開保育や他園(近隣の黒田・藤田幼稚園)との幼幼交流・共同研究を通じ、教員全体の更なる資質向上を期待している。</p>
<p>3、保護者への対応</p>	<p>A</p>	<p>教育目標に掲げた保護者や地域との共感し合う教育活動の実践として、「椎茸の駒打ち体験」を始め、夏のフェスタ、秋の運動会や生活発表会など順調に実施することができた。</p> <p>また、年長・年中児が「地域の神社祭典へ出演」や「高齢者の寄</p>	<p>A</p> <p>保護者参観も年4回実施され、参観日の椎茸駒打ち体験、運動会、生活発表会、交通安全教室などの親子協働の機会やカレーパーティー、落花生・サツマづくり体験における地域の皆さんの支援等による学習成果が上がっている。</p> <p>また、保護者からの子育てに関する相談(要配慮児)等も多くなっており、</p>

		<p>り合い処」の参加し、保護者観覧もあった。</p> <p>さらに、クラス別の保護者面談や学年別の保護者参観日の設定も保護者と相互に話ができ、園の出来事や園児の成長を確実に保護者に伝えることができた。</p> <p>お便り帳の交換は、マンネリにならないよう写真や絵柄(イラスト等)を使う工夫等を行い、共通理解が浸透している。特に、学園行事やモノづくり体験教室を報道機関に提供し、テレビや新聞で園児の様子を伝え、園活動全体を的確に保護者に理解して頂けるようその都度メール等で情報を送付している。</p> <p>また、送迎時の保護者との会話に当たっても、子ども達との言葉の掛け合いを発展させ、共通の話題を見つけながら対応していくよう努めていきたい。</p>	<p>子育て支援カウンセラーの来園等を図り、きめ細かな対応ができた点は評価する。</p> <p>特に、保護者とのお便り帳の交換では、写真やイラストを挿入する等工夫され、家庭との共通理解を深められた。</p> <p>モノづくり体験教室や学園行事を新聞、テレビでの報道もあり、園児たちの体験学習をメディアを通じての公開には保護者からの好評も抱いていることを伺い、さらに期待したい処である。</p> <p>今後は、子育て支援としての「たまごちゃん教室」を一層充実するとともに、子育て不安解消への支援など、地域に開かれた、きめ細かな活動を行って、本園に子弟を通わせる保護者との融和が一層確立されるよう努めて頂きたい。</p>
<p>4、地域の自然や社会とのかかわり</p>	<p>C</p>	<p>地域との連携が活発にできるようになり、「運動会」や「すぎのこフェスタ」などに、区民の参加を啓発し、園・家庭・地域が一体となった教育活動が進められるよう心掛けているが、園児たちの活躍を、多くの地域の人々にて広報して行きたい。</p> <p>毎年恒例となった「地域にある神社(子安神社)の祭典」へ年長児が参加し、その年長児の「茶道体験教室」には、地域の茶道団体が指導され、また、年数回、実施頂く「読み聞かせ教室」は、地域の読書ボランティアによって進められ、園児達にとっても地域(郷土)を知る機会となっている。</p> <p>さらに、教員自身が地域の自然や歴史、寺社等の知識を深め、それを教育活動の素材として取り入</p>	<p>B</p> <p>本年度の事業報告を伺い、園と家庭・地域が一体となって学園行事や教育活動が進展され、幼稚園への期待が高まっていることを高く評価したい。</p> <p>特に、年長組の鼓隊演奏を運動会や生活発表会で見ることができたが、地域内の高齢者対象の「寄り合い処」などへの参加も相互交流に繋がり、継続されたい。</p> <p>また、年何回かの地域にある大型店舗への絵画・塗り絵展示も地域連携の一步と思う。</p> <p>園の教育活動として実施している「カレーづくり・餅つき」を始め、「さつま芋や落花生」を育てる体験学習にも、地域の協力と保護者の参加などに加え、小・中・高校生の参加も促進して欲しい。</p> <p>さらに、学校関係評価者も述べているが、教員が地域の歴史や寺社の由来</p>

		れていくことで地域との関りも深まり、交流に繋がり、園児の地域意識を助長する上からも貴重だと思ふ。		等の探求を進め、郷土史研究家の招聘も取り入れ、園児の指導に役立てて欲しい。特に近隣小学校との園児・児童交流は、相互の成長に役立つと思ふ。
研修と研究について	B	<p>年間を通じ、園全体の教職員間で、コミュニケーションを図り、園内研修を年間数回施行するとともに、市私立幼稚園協会で実施する「教育研究」の内容充実に努めたい。</p> <p>保育に積極的に関心を持ち、園の中でも、自分の意見を積極的に提起していく姿勢を持ちたい。</p> <p>また、他園の良い所を吸収できる市内10園による「公開保育」に進んで参加し、いろいろな角度から子供にアプローチする方法など学ぶことができた。</p> <p>今後、近隣幼稚園との相互の園児交流とともに、園児の発達への工夫などの共同研究、さらに小学校との連携を積極的に行っていきたい。</p>	A	<p>本年度の「公開保育」は、市内2園に教員が分散して参観され、教員相互の交流を通じ、教育者としての資質向上に一層努められ、大きな成果だった。</p> <p>令和10年度は、当園が公開保育の実施園となるので、それに向けて、教育カリキュラムの研究などを全員で実施されたい。</p> <p>今年度も交通安全教室の際、園児のクラクション操作体験を実践し、さらに、日常勤務の中での安全確認の注意点を教職員間で話合うなど、常に危機管理を徹底していることを伺い、その姿勢を評価する。</p> <p>特に、現在の少子化対策などの課題解決に向け、幼稚園としても他の幼稚園と共同研究・研修などによって、進めて行かれることを望む。</p>

4、重点目標等に対する総合的な評価結果

結果	内容・理由等
A	<p>学校法人としての運営体制も、私学助成園から子ども子育て新制度である「特定教育・保育施設」として3年が経過し、年間を通じた園全体の保育計画及び月間・週間指導計画の実施に余裕が出てきて、教職員各位においても、自己の教育活動の中で、園児の生活をしっかりと進めて頂き、教員相互に意見交換など行い、工夫やアイデアを出し合っ、各年齢ごとの園児たちも、それぞれの課程を通じ、楽しく学び・や遊ぶことができたことを評価する。</p> <p>特に、園行事の「運動会」や会場が一時変更となっている「生活発表会」は、保護者の協力・支援もあり、「カレーづくり体験」は、地域のLPガス協会の方々、「餅つき」は、農業団体の壮青年部の支援があり、PTA会長の参加などにより、「地域と共に生きる教育の実践」を進められた。これからも、預かり保育や要配慮児への取り組み等、本園の教員全体が力量を発揮され、幅広い教育活動と、それをバックアップする園全体の運営体制もより強固にして行かれることを期待する。</p> <p>また、地元の農業(さつま芋・落花生)や茶道体験教室など地域の教育資源や地位の方々の支援により教育活動が展開され、「富士山の日」・「おやこんぼの日」等を活用する生活体験などもあって、園児の豊かな心を育む上でも、十分な効果があったと思ふ。さらに、教員自らが行動し、視野を広め、地域(自然、歴史、地形、寺社、祭り等の教育資源)を学ぶ機会を増やし、その素材</p>

<p>や地域の伝統等を園児たちの学びに活用されるよう来年度へ繋げて頂きたい。</p> <p>また、園と家庭（保護者）・地域が連絡を密にし、保護者参観日の内容を充実するとともに、ホームページは、随時内容の見直しを行い、幼稚園を多くの方に理解頂けるよう、努められたい。</p>
--

5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取組方法
<p>1、教育計画に基づく地域、保護者と共感し合う教育活動の推進</p>	<p>・子ども子育て新制度「施設型給付園」に移行し、3年が経過し、本園の教育活動も着実に進められているところで、これまでの教育諸計画を常に振り返り、見つめ直しながら、来年度は、さらに内容の濃い年間計画を立て、日々の保育や学園の諸活動を進める。</p>
<p>2、教職員の資質向上を目指した研修の充実</p>	<p>・本園は創立45年余が経過し、運営面でも大きな節目であり、コロナやインフルエンザ等の感染の影響もあり、ここ数年間でできなかった杉田幼稚園から地域への情報発信を増やし、特に、学園の主要行事への地域住民の参加を回覧板やHPによって啓発し、保護者や地域等に杉田幼稚園をアピールするとともに、教員自身も地域の自然、歴史、産業、寺社の生立ち等を学び、教職員の視野を広めて行く。</p> <p>・幼稚園教育要領や「県教育大綱」及び「教育振興基本計画」の内容を全教職員が会得し、要配慮児への対応及び地域や保護者との共感し合える新たな課題等をテーマとした教職員の研究体制を充実するとともに、教職員の資質向上に向けた研究・研修体制を強化する。</p> <p>・地域の小学校や幼稚園との連携を図り、教職員間の交流や共同研究等を行うとともに、教職員のチームワークの良さを、園活動の中で園児達に示し、伝授していくことで、園児たちが有意義な園生活を送れるように努める。</p>
<p>3、学園の防災・危機管理等の徹底</p>	<p>・通園バス事故や各地で発生した地震、豪雨、山火事による教育活動の停止等を教訓に、園全体で「事故を防ぐための危機管理マニュアル」や「コロナ感染防止ガイドライン」を始め、「地震等防災対策マニュアル」「富士山噴火避難確保計画」を随時に見直すとともに、保護者とその家庭との連携を深め、防災や衛生管理機関等との連絡体制の強化を図り、実践的な避難訓練、情報提供等を実施するとともに、園内遊具の点検・改善整備も行い、危機管理教育の推進を図り、インフルエンザや新型コロナウイルス等の感染症対応など一層の充実強化に努める。</p>

学校関係評価者

<p>(参加者)</p> <p>・保護者（杉田幼稚園PTA会長） ・地域住民（地区在住） ・学識経験者（天間くらし支え合いセンター推進員）</p>

令和7年度 事業報告

(学) 長橋学園 杉田幼稚園

1、学校法人の実績

昭和54年3月15日に地域の要請により設立した本園(私立幼稚園)は、45年余の長きに亘って、「豊かな人間性の基礎を育み、健康で明るい素直な子どもの育成」と「地域に根ざした幼児教育施設の役割」を果たしている。近年の少子化という大きな流れの中で、コロナ・インフルエンザ感染などが発生し、集中豪雨など予測できない自然災害などの影響もあり、教育活動や学園行事の中止・縮小等もあったが、令和7年度は、「子ども・子育て新制度」に基づく「特定教育施設」に移行し、3年目となり、新たな道のりを着実に進み、園児数の減、教員減などあったが、運営面も良好な状況で終始した処であります。また、園則(学級・定員数)改正について、知事認可を申請し、県私立学校審議会議(令和8年3月12日)の審議を経て、令和8年3月23日知事認可となり、令和8年4月1日施行となっている。

2、就園児の実績

区 分	年長(はと)	年中(ひばり)	年少(ひよこ)	満3歳児(もも)	合 計
学級数(級)	1	1	1	1	4(園則学級数:9級)
園児数(人)	17(卒)	20	13	7	57(利用定員:75人、園則定員200人)

<令和8年3月現在> *4/1園則改正(学級数:7級、定員75人)

3、研修の実績

県私立幼稚園振興協会等の外部研修が、会場型研修からリモート研修やハイブリット研修に進展した経緯の中、教職員は、予定した研修を受講し、幼児教育の充実を担う教職員の資質向上を果たすことができました。加えて、富士宮市私立幼稚園協会の公開保育への参加(1月)、実技研修(8月)も、当初計画した研修メニューを、ほぼ完遂することができた。

こうした中、園内の教職員が園内で相互に、その力量を高め合うことができる園内研修を重視し、毎月末の教職員会議後の時間を利用して、「園児の諸行動への対応や遊具・交通事故等の危機管理の徹底」、「幼児教育センターとしての園開放のあり方」、「富士山噴火を想定した避難訓練」など、教員相互で工夫しながら、多彩な研修・研究を実践した。

4、教育活動(行事)の状況

令和7年度の教育活動は、本園が掲げる「明るく元気に頑張る子」を目標に、① 園児一人一人が”生きる力”を存分に発揮して、共に学ぶ環境が整い、生き生きとした活動を展開した。② 家庭、地域社会及び幼稚園が一体となり連携を深め・相互に理解し、共感し合える園づくりとして薩摩・落花生づくりを実践し、カレーづくりや餅つき体験など、環境構成を工夫しながら実施した。また、この一環として「おやこぼ事業」(振興協会主催)を推進した。③ すぎのこフェスタ、運動会、生活発表会など大規模な学園行事は、時間の短縮や使用する会場(生活発表は会場変更)の衛生管理の徹底等により、園児の活動をほぼ計画通り実践することができた。

④ 小学校への接続が円滑にできるよう園児たち(年長児)の「交通安全教室」を2回に亘って開催し、

交通指導員・うさぎさんクラブ員（保護者）の指導で、横断歩道での注意などを学び、園児全員で、通園バスのクラクション発信体験を経験した。また、幼小連携とし、富士根南小学校児がカレーパーティーに参加し、在園児との交流ができ、地域の方々の支援による茶道体験教室も開催し、満3歳児保育も最大7名が就園し、令和8年度への礎が形成された。

＜主要学園行事の実績＞

年 月	行 事	年 月	行 事
令7.4	入園式、始業式、内科検診(全員)、子安神社祭典に賛助出演(はと組) 歯科検診(全員)、菜の花迷路体験(はと・ひばり組)	令7.10	芋ほり(ひばり・はと組)、交通安全教室(バス警笛: 全員)
11.5	保護者参観(学年毎)	11.11	・防災訓練(避難:富士山噴火を想定した避難、講話、消火器、引渡し)、生活発表会(富士ロゼシアター)
11.6	防災訓練、さつま蔓挿し・落花生種蒔(はと組)、ジャガイモ堀(もも組)、カレーづくり火育・食育・南小交流体験(全員)、保護者(土曜)参観	11.12	・餅つき体験(黄な粉餅、鏡餅作成)、クリスマス-サンタ来園(プレゼント)、お店屋さんごっこ、終業式
11.7	すぎのこフェスタ、終業式	令8.1	・始業式、繭玉作り(飾り)・正月遊び(凧作り・凧揚げ・羽子板遊び)、公開保育(参加園)
11.8	夏期保育(流しソーメン: 全員、スイカ割: はと組)	11.2	交通安全教室、豆まき(園児・教職員)、茶道体験(はと組)、保育参観(学年毎・ひばり組=椎茸駒打ち体験: 親子協働)、お別れ遠足(年長児: 外神東公園)、縄跳
11.9	始業式、運動会(午前完了)、防災訓練、落花生堀(ひばり・はと組)・挽ぎり(全員: 園庭)	11.3 予定	お別れ遠足(全員: 西公園)、お別れ会、卒園式、終業式

5、施設・設備整備の状況

園児の安心・安全確保のため、施設・設備の点検を実施するとともに、遊具等点検(年9回)を行った。平成30年度末に設置した「防犯カメラ装置」によって園舎内外の保安に役立っている。

本年度の設備整備は、各部屋冷暖房機器改修・整備: 1,329千円(市施設・設備補助金 700千円)を実施した。

6、管理・運営関係の実績

(1) 預かり保育<保育時間外に加え、夏・冬休み預かり保育を実施> (2) 通園バスの運行・安全対策 (3) 園庭開放事業 (子育て支援「たまごちゃん教室」事業の実施) (4) エコ教育の推進と古紙回収の実施 (5) 教育実習生の受入れ (6) 市内PTA活動 (5/18「富士山こどもの国」で子育てフェア:雨のため中止、市連総会:西ヶ丘幼稚園) (7)「特定教育施設」への移行に係る3年目事務遂行 (8) 幼稚園教育要領に基づく教育課程の取組み (9)「杉田幼稚園ホームページ」の改良 (10) 私立幼稚園教育研究東海北陸大会への参加<岐阜市> (11) 学校評価の徹底 (12) 秋の動物園遠足、お別れ遠足、入園式、卒園式の実施 (13) 絵画コンクール入選等(富士山こどもの国、富士山への手紙・絵コンクール等)

*「付属明細書」は特になし

令和7年度 学校法人長橋学園 杉田幼稚園 財務情報公開

1.財務状況

【資金収支計算書】

科目	決算額
収入の部	
学生生徒等納付金収入	2,292,870
手数料収入	26,000
寄付金収入	-
補助金収入	58,680,400
資産売却収入	-
付随事業・収益事業収入	5,649,240
受取利息配当金	42,920
雑収入	4,928,219
その他の収入	14,980,996
資金収入調整勘定	△3,596,985
前年度繰越支払資金	5,748,814
収入の部 合計	88,752,474
支出の部	
人件費支出	58,318,863
経費支出	18,718,864
施設関係支出	-
設備関係支出	1,329,900
資産運用支出	792,700
その他の支出	3,087,301
資金支出調整勘定	△111,065
翌年度繰越支払資金	88,752,474
支出の部 合計	93,838,771

【貸借対照表】

科目	本年度額
資産の部	
固定資産	252,956,007
流動資産	10,304,554
資産の部 合計	263,260,561
負債の部	
固定負債	4,626,200
流動負債	3,798,740
負債の部 合計	8,424,940
基本金の部	
第1号 基本金	378,564,730
第4号 基本金	6,000,000
基本金の部 合計	384,564,730
翌年度繰越収支差額	△129,729,109
純資産の部 合計	254,835,621
負債及び純資産の部 合計	263,260,561

【事業活動収支計算書】

科目	決算額	
教育活動収支	収入	
	学生生徒等納付金収入	2,292,870
	手数料	26,000
	寄付金	0
	経常費等補助金	57,980,400
	付随事業収入	5,649,240
	雑収入	4,928,219
	教育活動収入計	70,876,729
	支出	
	人件費	59,023,263
	経費	26,073,956
	徴収不能	0
	教育活動支出計	85,097,219
	教育活動収支差額	△14,220,490
収入		
受取利息・配当金	42,920	
その他の教育活動外収入	0	
支出		
借入金等利息	0	
教育活動外収支差額	42,920	
経常収支差額	△14,177,570	
教育活動外収支	収入	
	資産売却差額	0
	その他の特別収入	700,000
	特別収入計	700,000
	支出	
資産処分差額	3	
その他の特別支出	2,031,300	
特別支出計	2,031,303	
基本金組入前当年度収支差額	△1,331,303	
基本金組入学合計	△15,508,873	
当年度収支差額	△16,538,773	
前年度繰越収支差額	△113,190,336	
翌年度繰越収支差額	△129,729,109	
事業活動収入計	71,619,649	
事業活動支出計	87,128,522	

【財産目録】

科目	金額
基本財産計	252,956,007
運用財産計	10,304,554
資産の部 合計	263,260,561
固定負債計	4,626,200
流動負債計	3,798,740
負債の部 合計	8,424,940
差引純資産	254,835,621
正味財産の部 合計	263,260,561

監査報告書

令和8年6月2日

学校法人 長橋学園
理事会 御中

学校法人 長橋学園

監事 市川 宏



監事 池谷 好弘



私たちは、学校法人長橋学園の監事として、私立学校法第52条第1号に基づいて同学園の令和7年度（令和7年4月から令和8年3月31日まで）における財産目録及び計算書類等（資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表及び付属明細書、事業報告書及び付属明細書）を含め、学校法人の業務及び財産の状況並びに理事の業務執行の状況について監査を行いました。

私たちは監査にあたり、理事会等に出席するほか理事から学園業務の報告を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧するなど必要と思われる監査手続を実施しました。

監査の結果、私たちは、学校法人の業務に関する決定及び執行は適切であり、財産目録及び計算書類は会計帳簿の記載と合致し法人の収支及び財産の状況を正しく示しており、理事の業務執行は適切であり、学校法人の業務及び財産並びに理事の業務執行に関し、不正の行為または法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないものと認めました。

以上

監 査 報 告 書

令和8年 6 月 2 日

学校法人 長橋学園

評議員会 御中

学校法人 長橋学園

監事 市川 宏



監事 池谷 好弘



私たちは、学校法人長橋学園の監事として、私立学校法第52条第1号に基づいて同学園の令和7年度（令和7年4月から令和8年3月31日まで）における財産目録及び計算書類等（資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表及び付属明細書、事業報告書及び付属明細書）を含め、学校法人の業務及び財産の状況並びに理事の業務執行の状況について監査を行いました。

私たちは監査にあたり、理事会等に出席するほか理事から学園業務の報告を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧するなど必要と思われる監査手続を実施しました。

監査の結果、私たちは、学校法人の業務に関する決定及び執行は適切であり、財産目録及び計算書類は会計帳簿の記載と合致し法人の収支及び財産の状況を正しく示しており、理事の業務執行は適切であり、学校法人の業務及び財産並びに理事の業務執行に関し、不正の行為または法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないものと認めました。

以 上